

彩の歳時記

平成二十六年 七月

はちす葉の にごりにしまぬ心もて なにかは露を 玉とあざむく

僧正遍昭【816～890】

「蓮の葉は、泥水の濁りに染まず、清らかな心を持つているのにどうしてその上の露を玉と見せかけ、だますのか。」

一億四千万年前には存在していたと言われる「蓮」は古名を「はちす」と言い、花が「蜂の巣」に見立てられたことに由来します。七・八月頃の朝方が見頃。原産はインド。

昭和29年、東大検見川農場の遺跡で発掘された種子を大賀一郎博士が発芽させた

（大賀ハス）は二千年前の物。八百年ぶりに発芽した（中尊寺金色堂の蓮）や埼玉県行田市で発芽した（行田蓮）などが有名。上野公園の不忍池は、江戸時代より浮世絵に描かれた名所。今夏は「蓮観察デッキ」が設置され、より近くで鑑賞できるようです。「江戸砂子」に「湖水浪しづかにして紅白の蓮王を吐きて旭をむかへ、葉は水面を覆ひてただ芝生の如し」



七月の異称 文月（ふみづき・ふづき） 短冊に歌や字を書き、書道の上達を願った七夕の行事に由来。

七月の暦

一日 山開き 海開き 童謡の日

二日 半夏生（はんげしょう） 雑節 サトイモ科カラスビシャクの半夏（はんげ）という毒草が生ずる。田植之後の稲が蛸の足のように根付くようにと蛸を食べる風習が全国的に。



六日～八日 朝顔市 江戸時代に文人・狂歌師・大田南畝の地口「おそれ入谷の鬼子母神びっくり下谷の

広徳寺」で有名な入谷鬼子母神などで開催。



七日 小暑（しょうしょ） 梅雨明けの頃、暑さも本格的に。

七夕の節句

十五日の孟蘭盆会（盆）に戻って来る先祖のために衣を織る「棚機」に由来。



これに中国の故事「天の川を隔てた織姫（こと座のペガ）と彦星（わし座のアルタイル）が年に一度再会を許される日」が結びつき、宮廷行事として定着。雨にならないようにゆかたの日 日本ゆかた連合会が1981年に制定。裁縫の上達を祈り、衣類に感謝する日



廿三日 盆迎え火 十六日 送り火

十五日 お盆 祖先の霊を供養し墓参をする日。旧暦やひと月遅れで行う地方が多い。



十四日 パリ祭 フランス革命記念日 1932年の映画「Tu Quatorze Juillet」(7月14日)の

邦題「巴里祭」に因む。1963年に日本シャンソン界の草分け・石井好子【1922～2010】が始めたシャンソンの祭典が、シャンソン歌手が一堂に集い開催される。



二十一日 海の日(国民の祝日) 「月20日の海の日」が祝日化したもの。2003年から「月第00月曜日

二十三日 大暑（だいしょ） 快晴が続く、気温が上がり続けるころ。

二十四日 河童忌 小説家・芥川龍之介【1892～1927】の忌日。代表作『河童』に因む。



辰年・辰月・辰日・辰の刻に生まれたことで龍之介とされたと言われる。夏目漱石に師事し、『鼻』『芋粥』などで漱石に絶賛され文壇の寵児になるが、漱石の死や極度な精神衰弱から自殺。1935年に友人の菊池寛が制定し、その名を冠した純文学の新人賞と言われる『芥川賞』は昨年、150回を迎えた。長男・比呂志(ひろし)は俳優、三男・也寸志(やすし)は作曲家として名を成した。

七月の歌 水あそび 詞・曲 瀧廉太郎【1879～1903】 明治34年7月、『幼稚園唱歌』

十二小節の短い曲。アクセントにそった曲で簡単な歌詞に覚えやすいメロディ。

適当な詩がなかったので、瀧自身で作詞。近年の表記・作詞「東くめ」は誤りで映画「わが愛の譜・滝廉太郎物語」には作詞共とある。水遊びの楽しさが伝わる「ちゅっちゅっちゅっ」が正しく「しゅっしゅっしゅっ」は近年の創作。



水を沢山くんできて
水鉄砲で遊びましょ
一 二 三 四
しゅっしゅっしゅっ